

## 拡大理事会議事録

(一社) 日本ドラゴンボート協会

◇平成 26 年 12 月 14 日 13:30-17:00

◇大阪・難波サンケイビル 4 階会議室

### ① 矢田副会長、櫻井理事長挨拶

※出席者（順不動、敬称略）

矢田、後藤、原田、川北、菖蒲、利波、森永、合田、櫻井、谷下野（兵庫協会）、上野（兵庫）、河田（兵庫）、半田（兵庫）、長谷川（東京協会）、緒方（福島協会）、千代田（福島協会）、山脇（滋賀県協会）、木村（大阪協会）、小松（大阪協会）

### ② 代表理事の退任と後任選定

代表理事：大野氏、理事：柳迫氏の退任について

大野氏の後任代表理事には関東を代表し、長谷川伸氏が受諾するか検討する。

柳迫氏の後任には、評議委員会から 1 人—2 人理事を次回総会で選出する。

⇒全理事承認

### ③ J D B A 競技規則の改定

#### ◎「ドラ」と「スタート 1 分前」のコールについて

(森永)：「スタート 1 分前」というコールは世界で日本しか行っていない。

(菖蒲)：ドラを叩くのも日本だけである。しかし、伝統を重視してドラを使用することは日本国内における大会では残して良いと思う。国際的には (IDBF 規定では)「アーユレディー・アテンション・ゴー」のみである。

討議の結果、以下のように変更する。

⇒変更

- ・「スタート 1 分前」のコールは止める。
- ・ドラはチーム紹介の直後に鳴らす。
- ・順序：①チーム紹介 ②ドラ ③アーユレディー・アテンション・ゴー

## ◎コース途中のウオッシュ・ハンギング (Wake Riding, Wash Hanging)、ゴール地点でのコースアウトに伴う失格、タイムペナルティについて

(森永) IDBF ルールではレーンの中央を走るように規定されている。中央から逸れた場合はまずはアンパイア・ボートから注意を促し、指示に従わない場合アンパイアは競技委員長 (Chief Official) に対してペナルティを進言することになっている。

(菖蒲)・IDBF ルールの「R 7. 1」にレーンの中央を走るように記載されている。「ウオッシュ・ハンギング」に相当するというアンパイアからの指摘を回避するために、隣のレーンとの距離は最低 1 メートル (ボートからの距離ではなく、パドルの端<ブレード>からの距離) は空ける。すなわち、隣のボート間の距離は最低 2 メートルを維持しなくてはならない。この内容に沿って、「レーンのセンターを走ること」を J B A 8 条-2 項に付け加え、準決勝以上のレースに限り、これに違反した場合はタイムペナルティ (5 秒以内) を課すことがあるという内容にしてはどうだろうか。

### 討議内容

- ・ 4 章の 23 条で「着順調整で故意にタイムを落とした場合は、失格とする」という条項について。この条項は適切かどうか。
- ・ ゴールでコースアウトした場合は、「失格または 5 秒以内の範囲でタイムペナルティを課す場合がある」ことを、J D B A 8 条-4 項に追加してはどうだろうか。
- ・ J D B A 8 条-3 で、「ドラマーは座って」の条項について、国内大会で立っているドラマーもいるが、今後どのような扱いにするか。

### 第 8 条 2 項

「舵取 (ステアーズマン) は、専ら自艇に与えられたレーンの維持に責任を持つ」

⇒

「舵取 (ステアーズマン) は、専ら自艇に与えられたレーン中央の維持に責任を持つ」

### 第 8 条 4 項

「これに反した場合、タイムペナルティを受ける場合がある」

⇒

「これに反した場合、失格またはタイムペナルティを課す場合がある」

## 第8条3項

「ドラマーは座って」という条項についてはこのまま保持するが、ドラマーは1本のバチでも問題ない、という内容にする。

- ④ スポーツ振興くじ助成について（全体）

2015年のtotoの助成が始まっているので、法人化している都道府県協会は申請の手続きを行っていく。
- ⑤ スポーツインテグリティについて（全体）

2020年の東京五輪を見据えて、スポーツ団体のインテグリティ（高潔さ、品位）について取り組んで行く。具体的には、ドーピングやセクハラ、暴力の問題など。
- ⑥ 国際連盟理事会報告  
IDBF シンポジウム報告（2014年12月6日ー7日、マカオにて開催）

バングラデッシュ、タイ、ウクラウナ、オランダ、マレーシア、イタリア、タヒチ・ヌイ、イラン、イギリス、オランダ、香港、フィリピン、カナダ、中国、トリニダード・トバゴ、日本の18か国が参加

  - ① IDBFのIOCへの加盟について  
IOCへの申請書類は全て提出済みであり、IDBFは2年以内くらいにIOCに加盟出来る可能性がある。
  - ② IDBFには現在、85カ国が加盟、約10か国がIDBFへの加盟を申請中。また、スポーツアコード（SportsAccord）（以前のガイスフ<GAISF、スポーツ連盟連合>）にも認可されている。その関連で、2016年9月にスポーツアコードが主催のワールドビーチゲームズを開催計画中。
  - ③ アールスポーツ（RSports、ニューヨークに本部を置く）という会社がデジタルでHPなどをリンクしてIDBF加盟の世界中のチーム紹介、閲覧を行っている。近日中に代理店（東京）からJDBAに連絡がある予定で、出来ればJDBA事務局レベルで対応願いたい。
  - ④ アジア競技会  
次回2018年のアジア競技会はインドネシアで開催されるが、ドラゴンボート競技も競技種目の一つとして決定される可能性が高い。
  - ⑤ ハンディキャップ・アスリートの参加について  
IOCに加盟したらハンディキャップ・アスリートを含めた大会を必ず行わなければならない。香港などでは、すでに取り組んでいるので、その情報を入手しながらハンディキャップ参加者を含めた大会運営について検討していく。
  - ⑥ ジュニアの育成について、韓国や香港では「国際海洋少年団協会（International Sea Cadet Association）」と協力しながら、ドラゴンボート競技への参加を呼び掛けている。日本にも「日本海洋少年団（Japan Sea Cadet Association）」が存在している。

るので、協力体制の対応を検討してみてはどうだろうか。

⑦ 各都道府県協会の活動状況

(大阪協会)：メンテ作業。10-3月冬季講習会。「体力強化」「舵取講習」

次年度からは社団法人化、ジュニアの育成（茨木ボーイスカウト）

(滋賀県協会)：totoの申請を子供大会で。2024年の滋賀国体でドラゴンを公開競技で行いたい。審判講習会の実施。来年も9月にびわ湖スモール大会を行う。

1000m大会は10月に行いたい。県体育協会に加盟したので2015年に県大会を行う。ドラゴン体験会は年間4000-5000人くらいが参加している。

(福島県協会)：8月下旬から毎週土日に小学生の練習会を10月末まで行った。来年は4月頃から始める。本日は兵庫県協会の芦屋の練習所を視察した。

(兵庫協会)：芦屋と相生で活動している。兵庫県協会としては現在6チームが参加。海洋体育館で体験会を行っている。

(磯風)：相生にはスモールドラゴンボートを使用できる環境が整っているので、日本代表選手の強化場所として相生で取り組んで行きたい。⇒承認

以上